

# JRA畜産振興事業の 公募が始まりました

公募締切  
平成28年 12/21 (水) まで



## 平成29年度 事業テーマ

下記のテーマに沿った、畜産の現場で役立つ実用的な技術の研究開発、調査研究、これらに関する情報提供に助成します。

- |                               |                 |
|-------------------------------|-----------------|
| ① 自給飼料の生産・利用の促進               | ⑤ 畜産物の生産・流通対策   |
| ② 担い手の確保(特定の地域における担い手の確保を含む。) | ⑥ 畜産に係る環境問題の対策  |
| ③ 経営改善の助長・支援                  | ⑦ 家畜衛生の向上のための対策 |
| ④ 多様な形質の家畜改良と効率的な飼養管理技術の普及    | ⑧ その他畜産振興に資するもの |

※この事業の実施は平成29年度JRA予算の農林水産大臣認可が前提となります。

## 事業テーマのうち重点的に対応する事項

以下の事項については、助成割合を高くします。

- |                                                                    |                                                 |
|--------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| ① 激甚災害(東日本大震災においては東京電力福島第一原子力発電所事故を含む。)による被災地の畜産振興に向けた畜産関連復興対策(注1) | ④ 畜産物の安全確保                                      |
| ② 畜産現場における女性の活躍推進                                                  | ⑤ 畜産物の生産・流通システムの高度化(高付加価値化、生産コストの低減、労働負担の軽減等)   |
| ③ 障がい者が畜産現場に参画しやすい労働環境の創出                                          | ⑥ 重要な家畜疾病(口蹄疫、鳥インフルエンザ、豚流行性下痢、馬インフルエンザ等)の防疫関連対策 |

(注1) 国及び被災した地方自治体が実施する畜産関連復興対策を補完するもので、特に、必要性が高く、効果並びに目的と手段が明確なものとします。

## 対 象

農業協同組合、大学や高等学校、公益社団法人や公益財団法人、一般社団法人や一般財団法人等

※株式会社や有限会社などの営利企業、個人は応募できません。また、国、地方公共団体の機関や独立行政法人も対象外となります。

# 日本の畜産業の未来のために、 JRAはこれからも支援していきます

## JRA畜産振興事業のご紹介

日本中央競馬会では、民間団体が自主的に実施する畜産の振興に  
役立つ取り組み、研究などを行う事業に助成しています。



### 強害雑草対策実証調査事業

実施主体：(一社)日本草地畜産種子協会



#### 除草剤では防除できないワルナスビが蔓延した 飼料用トウモロコシ圃場

飼料自給率の向上を図るため、国内飼料生産を阻害する  
大きな要因となっているシバムギ、ワルナスビ等の強害雑草  
の防除対策の実用規模での実証と普及を目的とする事業

### 乗馬等を通じた被災地支援 (馬とのふれあい)事業

実施主体：(公社)全国乗馬倶楽部振興協会

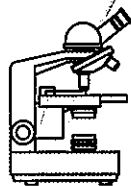


#### 馬とふれあう子供たちの様子

馬を活用したふれあい活動等を通して、被災地の子供たち  
を明るく元気にし、心身の健全な発展に寄与する事業

### 黒毛和種肥育牛の生産性向上と その安定化を実現する 新たな肥育診断技術の開発事業

実施主体：学校法人 近畿大学



#### 背景

肉用牛生産農家の期待：肥育素牛の遺伝  
的能力を最大限に発揮させて、優れた枝肉成  
績を持つ肉用牛を安定的に生産したい。

経験に  
基づく  
畜産経営

#### 研究開発

血液中の特定のタンパク質(バイオマーカータンパク質)を利用して  
肥育中に肉用牛の将来の枝肉成績を生体評価する手法の確立



肥育導入

肥育中

出荷



高価格の枝肉

血清中のバイオマーカータンパク質の量に基づいた枝肉成績の生体評価手法の適用  
【枝肉成績の生体評価結果とその対応例】

- ・優良と評価 → 健康管理に留意して、適切な飼養管理を継続
- ・あまり良好でないと評価 → 飼養管理を改善して、一定経過後に生体評価を再実施
- ・これ以上良好にならないと評価 → 早期出荷し、飼料費の抑制 など

#### 事業概略図

長期間・高価な穀物飼料を与え、丹精込めて育てた肉用牛の枝  
肉格付けを安定化させるため、バイオマーカータンパク質を目印に  
肉用牛の肥育状況を生体のまま評価する技術を開発する事業

JRA畜産振興事業では、畜産の振興に役立つ事業を数多く実施しています。  
平成29年度事業の公募は 平成28年12月21日(水)まで行っております。

詳しくはJRAホームページをご覧ください >>> <http://company.ira.jp/0000/chikusan/kobo/kobo.html>



日本中央競馬会